

図3 介護施設の完成イメージ



病床転換により計画された木造耐火構造（2×4工法）による介護施設。100居室の大規模建築物である。2012年3月竣工の予定。

問合せ先：カナダツガ・パートナー協会 03-5401-0536、当プロジェクトに関する問合せ先：松本設計 042-574-0285

※1：2010年には「公共建築物における木材の利用の促進に関する法律（平成22年法律第36号）」が策定された  
 ※2：施設は、2012年3月末に廃止される介護療養病床を老人保健施設などに転換する「療養病床転換支援」（2008年）という施策にもとづいている

### 汎用材による介護施設

「医療法人社団ときわ会介護付有料老人ホーム」も、こうしたコンセプトにもとづいた、2×4工法による大規模木造建築物「※2」。2×4工法に適する汎用的なSPF材のほか、建物の外周を固めるためのOSB（構造用パネル）、カナダツガの集成材を採用した。食堂のプランニングも特徴的である。一般的に食堂などの共用部分

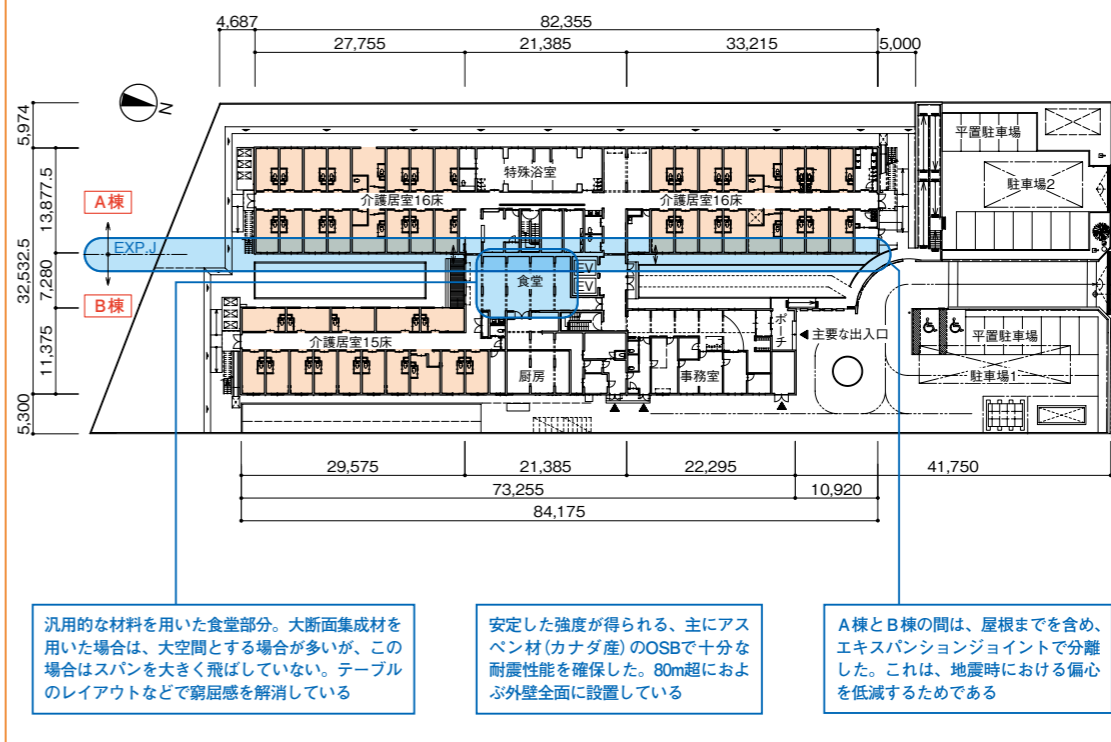
は、大断面集成材を用いてスパンを大きく飛ばし、開放的な大空間とすることが多いが、今回は食堂をあえて大空間とはせず、テーブルのレイアウトを工夫して窮屈感を解消した。「技術的には、住宅用資材での大スパンも、十分可能です。今後は積極的にチャレンジしたい」（松本氏）。

木造で大規模建築物を設計する場合に大きな問題となるのが、設備配管の引き回しである。戸建住宅とは異なる

り、設備配管のポリウムが格段に増えるため、相応のノウハウが求められる。このとき、配管スペースの確保を目的とした主要構造部や基礎へのスリーブ貫通は、建物の耐力を低下させるので、あまり好ましくはない。今回の設計では、①1階天井懐を二重天井により確保し、②配管の引き回しが難しいベタ基礎ではなく布基礎とした。

建物は2012年3月の竣工予定。「東日本大震災の影響で構造用合板調

図1 汎用性の高い材料を用いた木造介護施設 (1階平面図、S=1:1000)



### CANADA TSUGA Designers Project

# 医療法人社団ときわ会 介護付き有料老人ホーム（松本設計）

# カナダ産構造材を採用した100居室の次世代介護施設

### 大規模木造の明るい未来

住宅着工件数が年間80万戸前後にとどまる昨今。そんな閉塞状況を打破する1つの可能性として俄然、注目を集めるのが公共建築物だ。政策的な後押しも追い風に受け「※1」、今後、大規模木造建築物が業界牽引の一翼を担うことが予測される。そんななか、最近建替えの需要が高まっている高齢者向けの介護施設。高齢者の心身を温かく包み込み、快適な生活を支えらるるの、何と云ってもぬくもりに満ちた木造であろう。

住宅設計のアウトソーシングを中心に事業を展開してきた松本設計は、大規模木造建築物の設計を積極的に手がけている。計画上のポリシーは、「住宅にも使用できる汎用材を、工夫を凝らした設計によりうまく使いこなすこと」（同社会長・松本照夫氏）。大断面集成材などを用いる手法では、汎用性に乏しい。特殊な工法には、地場の工務店などに対応できない。松本氏の発言の背景には、そんな現実をふまえた営業戦略がうかがえる。翻れば、大規模木造建築物の汎用材を手中にすれば、木造住宅を手がけてきた設計者・施工者にも、ビジネスチャンスが大きいに広がることを意味する言葉だ。

【医療法人社団 ときわ会 介護付有料老人ホーム】(仮称) 所在地 千葉県松戸市 竣工 2012年3月 設計 松本設計  
 敷地面積 5586.00㎡ 建築面積 2177.30㎡ 延床面積 3984.60㎡ 構造 木造(2×4)・耐火構造、基礎 布基礎